

令和元年度補助系統別事業評価票(伊良湖支線)

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
伊良湖支線(福祉C堀切)	豊鉄バス	同左	渥美病院～保美	29.0km	7.3回	田原市
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)	模式図(△□)
<p><接続する系統> 豊橋鉄道渥美線</p> <p><接続される系統> 田原市ぐるりんバス(③市街地線、④童浦線)、田原市ぐるりんミニバス(⑥表浜線、⑦高松線、⑧中山線、⑨八王子線)</p>	

2. R1年度の運行状況

事業実施の適切性	評価の基準	《参考数値》 主要指標の推移(△)																														
<p>計画どおり運行されたか(△)</p> <p>評価 計画どおりか。そうでない場合は理由</p> <p>A 補助対象期間の開始日から、やむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。</p>	<p>A → 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合</p> <p>B → 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合</p> <p>C → 系統廃止に至る場合</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間利用者数【人】</td> <td>55,605</td> <td>53,971</td> <td>52,818</td> <td>53,026</td> <td>57,973</td> </tr> <tr> <td>平均乗車密度(実績)</td> <td>3.6</td> <td>3.4</td> <td>3.2</td> <td>3.2</td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td>輸送量(実績)</td> <td>25.9</td> <td>24.8</td> <td>23.3</td> <td>23.3</td> <td>25.5</td> </tr> <tr> <td>収支率(実績)</td> <td></td> <td></td> <td>45.1%</td> <td>44.4%</td> <td>46.6%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	年間利用者数【人】	55,605	53,971	52,818	53,026	57,973	平均乗車密度(実績)	3.6	3.4	3.2	3.2	3.5	輸送量(実績)	25.9	24.8	23.3	23.3	25.5	収支率(実績)			45.1%	44.4%	46.6%
年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度																											
年間利用者数【人】	55,605	53,971	52,818	53,026	57,973																											
平均乗車密度(実績)	3.6	3.4	3.2	3.2	3.5																											
輸送量(実績)	25.9	24.8	23.3	23.3	25.5																											
収支率(実績)			45.1%	44.4%	46.6%																											

目標・効果達成状況			
評価	目標の達成状況(△)	運営主体の所見、理由分析、認識(△)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
A	目標 53,345	前年比109.3%で、目標に対しては108.7%で目標を達成することができた。前年比の内訳として、定期外138.9%、定期91.1%となった。	市町村名: 田原市
	結果 57,973		過去数年と比べ利用者数は増加している。定期外が増えているため、一般の利用者が通院や買い物で利用していると考えられる。一方、定期利用は減っており、沿線の学生数の減少や車での送迎の増加が要因として考えられる。
<p>特記事項</p>		市町村の所見、理由分析、認識(□)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
<p>市町村名:</p>		市町村名:	市町村名:

複数市町村を跨ぐ系統としての役割					
指標(市町村を跨いでの利用)	利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	
市町村を跨ぐ	4,770 人/月	旧町を跨いでの利用が利用者のほぼすべてを占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、起点にある渥美病院への通院や田原駅への鉄道利用者や成章高校、渥美農業高校、福江高校への通学利用者が大部分と考えられる。	市町村名: 田原市	市町村名:	市町村名:
全利用者に占める率(△)	89.6 %				
特記事項	合併前の田原町、赤羽根町、渥美町を跨ぐ利用者と率。推定値。				

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体(断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等)(△)	沿線市町村(沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載)(□)
	田原駅周辺にラグララン(商業施設[H30.6~]・親子交流館すくっと[H31.4~])、ABホテル[H31.1~]がオープンした。(田原市)

3. R1年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
B	事業評価を踏まえた取組	田原市内における高校生の定期券出張販売を実施。また赤羽根地区において高齢者を対象とした市政ほーもん講座で、田原市と利用促進に努めた。	市町村名： 田原市 ・令和元年9月から市内高校生への通学定期券の購入助成を実施。 ・運営主体と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布。(全戸配布用・学生用)	市町村名：	市町村名：
改善点とした事項(△) 中学生・高校生を対象にした利用促進事業を実施。		田原市と協力し、夏休み親子バス体験教室を実施し、利用促進を図った。広域には夏休み小学生50円バスの実施。	・運営主体と協力し、夏休み親子バス体験教室の実施 ・福祉回数券等の交付 ・広報紙で利用促進のPR ・エコフェスタ等のイベントでPR		
関係者の連携等(△□) 必要な情報交換を実施。	その他の				

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
通学利用者が多いので、田原市内の高校生利用者への情報提供を継続的に行っていく。また、渥美病院への通院利用者に配慮した運行形態を検討する。	市町村名： 田原市 ・高校への通学利用者が大部分を占めているが、親の送迎による通学者も多い。 ・学生以外の利用が少ない。 ・距離が長いので運賃が高額となる。	市町村名：	市町村名：

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R2年度、R3年度に行う取組	令和元年10月より、主に渥美病院への利便性向上として、昼間帯に運行本数を増便する。	市町村名： 田原市 ・令和元年9月から行っている市内高校生への通学定期券の購入助成を継続して実施する。 ・中学生、高校生を対象とした利用促進事業(パンフレット配布等)を実施する。	市町村名：	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通網形成計画に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名： 田原市 市内公共交通全体の利用者数165万人[H28・H29年度の集計値]の維持(増加)	市町村名：	市町村名：
自己評価	補助系統の実績については、H28・H29年度の集計値よりも増加している。		

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名： 田原市	市町村名：	市町村名：
渥美病院・田原駅・保美バス停で田原市ぐるりんバスと接続しており、平成30年度の利用者実績は95,043人となっている。		

通信欄 (この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※適宜、セルの結合を変えて利用してください

令和元年度補助系統別事業評価票(伊良湖本線(渥美病院福祉C明神))

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
伊良湖本線(渥美病院福祉C明神)	豊鉄バス	同左	渥美病院～伊良湖岬	29.1km	4.4回	田原市
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)	模式図 (△□)
<p><接続する系統> 豊橋鉄道渥美線</p> <p><接続される系統> 田原市ぐるりんバス(③市街地線、④童浦線、⑤野田線)、田原市ぐるりんミニバス(⑥表浜線、⑦高松線、⑧中山線、⑨八王子線)</p>	

2. R1年度の運行状況

事業実施の適切性		評価の基準	《参考数値》 主要指標の推移(△)					
計画どおり運行されたか(△)			<p>A → 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合</p> <p>B → 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合</p> <p>C → 系統廃止に至る場合</p>	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
評価	計画どおりか。そうでない場合は理由	年間利用者数【人】		43,717	37,587	29,049	43,797	44,522
A	補助対象期間の開始日から、やむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。	平均乗車密度(実績)	5.4	4.9	4.1	5.1	4.4	
		輸送量(実績)	18.3	17.1	14.3	19.8	19.3	
		収支率(実績)			57.6%	68.6%	59.0%	

目標・効果達成状況			
評価	目標の達成状況(△)	運営主体の所見、理由分析、認識(△)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
A	目標	前年比101.6%で利用者が増加。目標に対しても、151.8%で目標を達成することができた。平成30年4月より朝1片増便し、高校生の通学の利便性を向上した結果、通学定期の利用者が微増した事が考えられる。	市町村名: 田原市
	結果		前年度に比べ利用者数は微増している。運行回数が増加したことによる通学利用の増加が考えられる。しかし、伊良湖本線全体では、沿線の学生数の減少や車での送迎の増加が考えられる。
	特記事項		
<p>評価の基準</p> <p>A → 年間目標利用者数を達成できた場合</p> <p>B 1 → 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合</p> <p>B 2 → 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合</p> <p>C → 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合</p>			
		市町村の所見、理由分析、認識(□)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
		市町村名:	市町村名:

複数市町村を跨ぐ系統としての役割				
指標(市町村を跨いでの利用)	利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)
市町村を跨ぐ	3,270 人/月	市町村名: 田原市	市町村名:	市町村名:
全利用者に占める率(△)	77.0 %			
特記事項	合併前の田原町、渥美町を跨ぐ利用者と率。推定値。	<p>・朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。</p> <p>・日中は高齢者の渥美病院等への通院や田原市街地での買い物で利用されている。</p>		

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体(断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等)(△)	沿線市町村(沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載)(□)
	田原駅周辺にラグラン(商業施設[H30.6~]・親子交流館すくっと[H31.4~])、ABホテル[H31.1~]がオープンした。(田原市)

3. R1年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
A	事業評価を踏まえた取組	伊良湖岬方面の宿泊施設に、割引きっぷ各種を掲載した、観光利用者に向けた利用促進パンフレットを配布した。また、田原市内における高校生の定期券出張販売を実施。	市町村名： 田原市 ・令和元年9月から市内高校生への通学定期券の購入助成を実施。 ・運営主体と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布。(全戸配布用・学生用)	市町村名：	市町村名：
改善点とした事項(△) 観光利用者に向けた利用促進策強化。通学利用者にも継続したPRを実施。		田原市と協力し、夏休み親子バス体験教室実施し、利用促進を図った。広域には夏休み小学生50円バスを実施。	・運営主体と協力し、夏休み親子バス体験教室の実施 ・福祉回数券等の交付 ・広報紙で利用促進のPR ・エコフェスタ等のイベントでPR		
関係者の連携等(△□) 必要な情報交換を実施。	その他の				

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
H30.4.1に運行回数を増便し、輸送量が回復し、一定程度の効果がみられる。引き続き、通学利用者と観光利用者に向けた利用促進策を図っていく。	市町村名： 田原市 ・高校への通学利用者が大部分を占めているが、親の送迎による通学者も多い。 ・学生以外の利用が少ない。 ・距離が長いので運賃が高額となる。	市町村名：	市町村名：

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R2年度、R3年度に行う取組	利用者の利便が向上する運行に努めていく。田原市内における高校生の生徒数が減少しているなかで、生活交通路線として安定的な路線の維持に努めていく。また、並行して運行している他系統との取組みも必要である。	市町村名： 田原市 ・令和元年9月から行っている市内高校生への通学定期券の購入助成を継続して実施する。 ・中学生、高校生を対象とした利用促進事業(パンフレット配布等)を実施する。	市町村名：	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあつては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通網形成計画に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名： 田原市 市内公共交通全体の利用者数165万人[H28・H29年度の集計値]の維持(増加)	市町村名：	市町村名：
自己評価	補助系統の実績については、H28・H29年度の集計値よりも増加している。		

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名： 田原市	市町村名：	市町村名：
渥美病院・田原駅・野田・保美バス停で田原市ぐるりんバスと接続しており、平成30年度の利用者実績は95,043人となっている。令和元年10月の運行内容の変更により、野田バス停では、補助系統とは接続しなくなる。		

通信欄 (この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※適宜、セルの結合を変えて利用してください

令和元年度補助系統別事業評価票(伊良湖本線(豊橋休暇村明神))

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
伊良湖本線(豊橋休暇村明神)	豊鉄バス	同左	豊橋駅前～伊良湖岬	53.3km	7.9回	豊橋市、田原市
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)

<接続する系統>
名古屋鉄道、豊橋鉄道渥美線
豊鉄バス(新豊線、豊川線)

<接続される系統>
豊鉄バス(豊橋市内路線)、豊橋コミバス(①しおかぜバス、②かわきたバス)、田原市ぐるりんバス(③市街地線、④重浦線、⑤野田線)、田原市ぐるりんミニバス(⑥表浜線、⑦高松線、⑧中山線、⑨八王子線)

模式図 (△□)

2. R1年度の運行状況

事業実施の適切性	評価の基準	《参考数値》 主要指標の推移(△)																														
計画どおり運行されたか(△)	A → 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間利用者数【人】</td> <td>107,142</td> <td>87,715</td> <td>127,523</td> <td>103,828</td> <td>117,923</td> </tr> <tr> <td>平均乗車密度(実績)</td> <td>4.4</td> <td>3.3</td> <td>4.7</td> <td>3.7</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>輸送量(実績)</td> <td>34.7</td> <td>26.4</td> <td>37.6</td> <td>29.2</td> <td>31.6</td> </tr> <tr> <td>収支率(実績)</td> <td></td> <td></td> <td>54.4%</td> <td>42.0%</td> <td>45.3%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	年間利用者数【人】	107,142	87,715	127,523	103,828	117,923	平均乗車密度(実績)	4.4	3.3	4.7	3.7	4.0	輸送量(実績)	34.7	26.4	37.6	29.2	31.6	収支率(実績)			54.4%	42.0%	45.3%
年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度																											
年間利用者数【人】	107,142	87,715	127,523	103,828	117,923																											
平均乗車密度(実績)	4.4	3.3	4.7	3.7	4.0																											
輸送量(実績)	34.7	26.4	37.6	29.2	31.6																											
収支率(実績)			54.4%	42.0%	45.3%																											
評価 計画どおりか。そうでない場合は理由	B → 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合 C → 系統廃止に至る場合																															
A	補助対象期間の開始日から、やむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。																															

目標・効果達成状況			
評価	目標の達成状況(△)	運営主体の所見、理由分析、認識(△)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
B1	目標	128,798	市町村名: 田原市 前年度に比べ利用者数は増加している。増加理由については、通学利用者や観光利用等が要因として考えられる。しかし、伊良湖本線全体では、沿線の学生数の減少や車での送迎の増加が考えられる。
	結果	117,923	
	特記事項	前年比113.6%となり利用者が増加した。目標に対しては、91.6%で目標を達成することができなかった。前年と比較すると、利用者の高校生と通学利用者以外(観光利用者等)での増加が考えられる。	
評価の基準 A → 年間目標利用者数を達成できた場合 B1 → 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合 B2 → 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合 C → 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合		市町村の所見、理由分析、認識(□) 市町村名: 豊橋市 目標は未達成であったが、昨年度に比べ利用者が増加している。本路線は豊橋駅前～藤沢町付近において、本市の幹線公共交通軸としての役割を担っていることから、市内での利用者増加の取組を図り続けていく必要がある。	市町村の所見、理由分析、認識(□) 市町村名:

複数市町村を跨ぐ系統としての役割					
指標(市町村を跨いでの利用)	利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	
市町村を跨ぐ	5,085 人/月	旧市町を跨いでの利用が利用者の約半数を占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、渥美病院への通院や豊橋駅、田原駅への鉄道利用者や、成章高校、渥美農業高校、福江高校への通学利用者が大部分と考えられる。	市町村名: 田原市 ・朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。 ・日中は高齢者の渥美病院等への通院や田原市街地での買い物で利用されている。	市町村名: 豊橋市 渥美病院への通院、観光利用を目的とした利用があると考えられる。	市町村名:
全利用者に占める率(△)	49.5 %				
特記事項	合併前の田原町、渥美町と豊橋市を跨ぐ利用者と率。推定値。				

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体(断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等)(△)	沿線市町村(沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載)(□) 田原駅周辺にラグララン(商業施設[H30.6~]・親子交流館すくっと[H31.4~])、ABホテル[H31.1~]がオープンした。(田原市)

3. R1年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)	事業評価を踏まえた取組	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
A		伊良湖岬方面の宿泊施設に、割引きっぷ各種を掲載した、観光利用者に向けた利用促進パンフレットを配布した。また、田原市内における高校生の定期券出張販売を実施。	市町村名： 田原市 ・令和元年9月から市内高校生への通学定期券の購入助成を実施。 ・運営主体と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布。(全戸配布用・学生用)	市町村名： 豊橋市 豊橋市への転入者や市内施設(豊橋市役所内、豊橋駅構内、各校区市民館等)において公共交通マップを配布した。	市町村名：
改善点とした事項(△)					
観光利用者に向けた利用促進策強化。通学利用者にも継続したPRを実施。					
関係者の連携等(△□)	その他の	田原市と協力し、夏休み親子バス体験教室実施し、利用促進を図った。広域には夏休み小学生50円バスを実施。	・運営主体と協力し、夏休み親子バス体験教室の実施 ・福祉回数券等の交付 ・広報紙で利用促進のPR ・エコフェスタ等のイベントでPR	・豊鉄バス・東三河7市町村と協力し、夏休み小学生50円バスを実施し、利用促進を図った。 ・公共交通利用促進イベントを実施。	
必要な情報交換を実施。					

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
豊橋駅前から伊良湖岬までの長い系統である。利用者全般において、昨年と比較すると利用者数が微増した結果を踏まえて、観光と通学利用者の使い方を含め、並行して運行している他系統と一緒に利用促進策を図る。	市町村名： 田原市 ・高校への通学利用者が大部分を占めているが、親の送迎による通学者も多い。 ・学生以外の利用が少ない。 ・距離が長いので運賃が高額となる。	市町村名： 豊橋市 各公共施設等に時刻表を配布し、利用者への情報提供を充実させるなどの利用促進が必要である。	市町村名：

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R2年度、R3年度に行う取組	利用者の利便が向上する運行に努めていく。田原市内における高校生の生徒数が減少しているなかで、生活交通路線として安定的な路線の維持に努めていく。また、観光需要を見込んだ取組みも必要である。	市町村名： 田原市 ・令和元年9月から行っている市内高校生への通学定期券の購入助成を継続して実施する。 ・中学生、高校生を対象とした利用促進事業(パンフレット配布等)を実施する。	市町村名： 豊橋市 ・豊橋市への転入者や市内の施設において公共交通マップを配布する。 ・夏休み小学生50円バスによる利用促進の実施。 ・公共交通利用促進イベントを実施する。	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通網形成計画に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名： 田原市 市内公共交通全体の利用者数165万人[H28・H29年度の集計値]の維持(増加)	市町村名： 豊橋市 目標未記載	市町村名：
自己評価	補助系統の実績については、H28・H29年度の集計値よりも増加している。	生活交通確保計画における目標である「収支改善率1%以上」については、達成された。H29年度時点には満たないものの、運営主体と関係自治体との取組が利用者数増加に繋がり、収支率に反映したものと考える。	

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名： 田原市	市町村名： 豊橋市	市町村名：
渥美病院・田原駅・野田・保美バス停で田原市ぐるりんバスと接続しており、平成30年度の利用者実績は95,043人となっている。令和元年10月の運行内容の変更により、野田バス停では、補助系統とは接続しなくなる。	補助系統に接続するフィーダー系統はない。	

通信欄 (この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※適宜、セルの結合を変えて利用してください

令和元年度補助系統別事業評価票(伊良湖本線(渥美病院保美))

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
伊良湖本線(渥美病院保美)	豊鉄バス	同左	渥美病院～保美	19.9km	14.4回	田原市
細系統	福祉センター経由	〃	渥美病院～保美	20.5km	11.4回	〃
	福祉センター経由	〃	田原駅前～保美	19.3km	3.0回	〃
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)	模式図 (△□)
<p><接続する系統> 豊橋鉄道渥美線</p> <p><接続される系統> 田原市ぐるりんバス(③市街地線、④童浦線、⑤野田線)、田原市ぐるりんミニバス(⑥表浜線、⑦高松線、⑧中山線、⑨八王子線)</p>	

2. R1年度の運行状況

事業実施の適切性	評価の基準	《参考数値》 主要指標の推移(△)																														
<p>計画どおり運行されたか(△)</p> <p>評価 計画どおりか。そうでない場合は理由</p> <p>A 補助対象期間の開始日から、やむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。</p>	<p>A → 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合</p> <p>B → 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合</p> <p>C → 系統廃止に至る場合</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間利用者数【人】</td> <td>107,390</td> <td>130,160</td> <td>111,569</td> <td>87,506</td> <td>94,492</td> </tr> <tr> <td>平均乗車密度(実績)</td> <td>4.2</td> <td>4.4</td> <td>4.2</td> <td>3.3</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>輸送量(実績)</td> <td>62.1</td> <td>66.0</td> <td>63.0</td> <td>48.1</td> <td>48.9</td> </tr> <tr> <td>収支率(実績)</td> <td></td> <td></td> <td>64.2%</td> <td>50.5%</td> <td>50.4%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	年間利用者数【人】	107,390	130,160	111,569	87,506	94,492	平均乗車密度(実績)	4.2	4.4	4.2	3.3	3.4	輸送量(実績)	62.1	66.0	63.0	48.1	48.9	収支率(実績)			64.2%	50.5%	50.4%
年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度																											
年間利用者数【人】	107,390	130,160	111,569	87,506	94,492																											
平均乗車密度(実績)	4.2	4.4	4.2	3.3	3.4																											
輸送量(実績)	62.1	66.0	63.0	48.1	48.9																											
収支率(実績)			64.2%	50.5%	50.4%																											

目標・効果達成状況			
評価	目標の達成状況(△)	運営主体の所見、理由分析、認識(△)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
B1	目標	112,684	<p>前年比107.9%。目標に対しては、83.8%で目標を達成することができなかった。前年比では、高校生による通学目的や買い物・通院利用者が増えた事が考えられる。</p>
	結果	94,492	
	特記事項		<p>市町村名: 田原市</p> <p>前年度に比べ利用者数は増加している。平成29年度以前と比べると運行回数の減少が主な要因であると考えられるが、沿線の学生数の減少や車での送迎の増加も要因として考えられる。</p>
<p>評価の基準</p> <p>A → 年間目標利用者数を達成できた場合</p> <p>B1 → 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合</p> <p>B2 → 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合</p> <p>C → 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合</p>		<p>市町村の所見、理由分析、認識(□)</p> <p>市町村名:</p>	<p>市町村の所見、理由分析、認識(□)</p> <p>市町村名:</p>

複数市町村を跨ぐ系統としての役割					
指標(市町村を跨いでの利用)	利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	
市町村を跨ぐ	6,660 人/月	旧町を跨いでの利用が利用者の約3/4を占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、渥美病院への通院や田原駅前への鉄道利用者や、成章高校、渥美農業高校、福江高校への通学利用者が大部分と考えられる。	市町村名: 田原市	市町村名:	市町村名:
全利用者に占める率(△)	72.5 %		<p>・朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。</p> <p>・日中は高齢者の渥美病院等への通院や田原市街地での買い物で利用されている。</p>		
特記事項	合併前の田原町、渥美町を跨ぐ利用者と率。推定値。				

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体(断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等)(△)	沿線市町村(沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載)(□)
	田原駅周辺にラグララン(商業施設[H30.6~]・親子交流館すくっと[H31.4~])、ABホテル[H31.1~]がオープンした。(田原市)

3. R1年度の取組状況

直近の事業評価結果(Δ)		運営主体の取組(Δ)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
B	事業評価を踏まえた取組	田原市と協力し、利用促進パンフレットを作成し、全戸配布した。また、田原市内における高校生の定期券出張販売を実施。	市町村名： 田原市 ・令和元年9月から市内高校生への通学定期券の購入助成を実施。 ・運営主体と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布。(全戸配布用・学生用)	市町村名：	市町村名：
改善点とした事項(Δ) 中学生・高校生を対象にした利用促進事業を継続実施。		田原市と協力し、夏休み親子バス体験教室を実施し、利用促進を図った。広域には夏休み小学生50円バスの実施。	・運営主体と協力し、夏休み親子バス体験教室の実施 ・福祉回数券等の交付 ・広報紙で利用促進のPR ・エコフェスタ等のイベントでPR		
関係者の連携等(Δ□) 必要な情報交換を実施。	その他の				

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(Δ)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
通学利用者が大部分を占めており、学生の数によって左右されるが、昼間帯の利用が少ないので、沿線住民の方に利用していただける対策が必要である。	市町村名： 田原市 ・高校への通学利用者が大部分を占めているが、親の送迎による通学者も多い。 ・学生以外の利用が少ない。 ・距離が長いと運賃が高額となる。	市町村名：	市町村名：

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組				
取組時期	運営主体の取組(Δ)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R2年度、R3年度に行う取組	利用者の利便が向上する運行に努めていく。田原市内における高校生の生徒数が減少しているなかで、生活交通路線として安定的な路線の維持に努めていく。また、並行して運行している他系統との取組みも必要である。	市町村名： 田原市 ・令和元年9月から行っている市内高校生への通学定期券の購入助成を継続して実施する。 ・中学生、高校生を対象とした利用促進事業(パンフレット配布等)を実施する。	市町村名：	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通網形成計画に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名： 田原市 市内公共交通全体の利用者数165万人[H28・H29年度の集計値]の維持(増加)	市町村名：	市町村名：
自己評価	補助系統の実績については、H28・H29年度の集計値よりも減少している。		

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名： 田原市	市町村名：	市町村名：
渥美病院・田原駅・野田・保美バス停で田原市ぐるりんバスと接続しており、平成30年度の利用者実績は95,043人となっている。令和元年10月の運行内容の変更により、野田バス停では、補助系統とは接続しなくなる。		

通信欄 (この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※適宜、セルの結合を変えて利用してください